



第1回「おたる案内人」マイスター 検定試験問題

2008年4月20日

小樽観光大学校

*合格発表は下記のホームページでご確認できます。

*URL:<http://www.otarucci.jp/kanko-daigaku/otarru-annai-nin.htm>

各設問で選択問題は1～4の番号で、また記述問題は決められた字数で解答用紙に記入しなさい。(制限時間120分)

問1

次のA・Bに当てはまる正しい数字を下記から選び、その番号を記入しなさい。

平成15年10月から16年9月における小樽の観光関連所得は、経済波及効果も加味すると { A } 億円程度となり、小樽市の市内産出額の { B } %程度になる。

- A 1. 450 2. 1,319 3. 2,000 4. 2,668
B 1. 12.1 2. 20.5 3. 31.2 4. 42.1

問2

同期間（前問の期間）において、小樽を訪れた観光客（合計）で、市内で宿泊した方としなかった方の割合はどの程度でしたか。次の中から選びなさい。

1. 25.8 対 74.2 2. 41.0 対 59.0
3. 56.9 対 43.1 4. 71.1 対 28.9

問3

北海道外からの観光客は、どのような交通手段で小樽にくるのでしょうか。多い順番に二つ選びなさい。

1. 定期観光バス 2. 自家用車 3. レンタカー 4. 列車 5. 貸切バス

問4

幌内の石炭を運び出すために国の政策によって鉄道が建設されました。その鉄道の起点に小樽が選ばれたのはどのような理由だったのでしょうか。次の中から正しいものを選びなさい。

1. クロフォードの調査で、室蘭ルートより建設しやすい地盤だったから。
2. 北海道開拓の拠点としての札幌に近く、陸運、海運の拠点にしたかった。
3. クロフォードが連れてきた鉄道建設の米国人技師が宿泊できる施設が小樽にあったから。
4. ライマンは室蘭ルートが適していると主張していたが、莫大な建設費がかかるので小樽になった。

問5

明治後半、小樽と函館は民間鉄道によってつながっていました。その鉄道名は次のどれですか。

1. 函館鉄道 2. 道南鉄道 3. 北海道鉄道 4. 函樽鉄道

問6

北海道の産業別総生産で明治30年代前半のトップは漁業（特に鱈）でしたが、明治30年代後半はトップの産業が入れかわります。その産業を次の中から選びなさい。

1. 製造業 2. 農業 3. 商業 4. 鉱工業

問7

戦前の北海道経済は函館と小樽で商圈を二分していました。函館は道南と太平洋岸。小樽は日本海岸、道北ともう一つ重要な商圈をかかえていました。それはどこでしょうか。

次の中から選びなさい。

1. 根釧 2. オホーツク海岸 3. 十勝 4. 樺太

問8

観光の語源は紀元前に孔子が儒教を創案した際の、「観国之光」からきていますが、何という教典でしたか。

1. 易教 2. 書経 3. 詩経 4. 礼記

問9

現在の小樽観光が発生する背景には「身近な旅行ならしたい」という明確な需要が昭和30年代から40年代にかけて芽生えてきましたが、それを可能にした現象は以下のどれですか。

1. 殖産興業
2. 情報化
3. 高度経済成長
4. 安定成長

問10

小樽のまちづくり運動の契機となった小樽運河保存運動ではいくつかの主張が提唱されましたが、次の内正しくないのはどれですか。

1. 市民主体のまちづくりを主張
2. 地域の独自性を尊重した公的整備を主張
3. 歴史的環境が新たな経済的資源になることを主張
4. 公共事業誘致を優先した経済振興を主張

問11

小樽観光の核になっているのは豊かな歴史的環境ですが、これら過去の遺産に現在の人々がこの二十数年の間にまちづくり運動の中で新たな価値を付加してきました。次の内その運動に該当しないものはどれですか。

1. ポートフェスティバルインオタル
2. オタルサマーフェスティバル
3. 小樽雪あかりの路
4. パティシパクション

問12

小樽観光元年から20年以上の時を経た現在、観光の形が変わってきているが、現在の観光は、()の形になってきている。

1. プライベート観光
2. サービス観光
3. パーソナル観光
4. マス観光

問13

ホスピタリティ・マネジメントにおける重要な企画に必要なものは、適切なプロダクト、そのプライス、流通チャネルのプレイス、()の4Pである。

1. パーソン
2. プロモーション
3. プレジャー
4. プロセス

問14

サービスは規則・基準が働いており、ホスピタリティには人の()が働いている。

1. 状況
2. 都合
3. 感情
4. 利益

問15

おたる案内人・マイスターは小樽観光のおもてなしの核となり()を創り出し、更なる小樽観光ブランドを構築していく重要かつ期待される存在である。

1. 消費者観光
2. 経済観光
3. サービス観光
4. 人間観光

問16

あなたが観光客にガイドをする場合、もっとも大事だと思う項目を次の中から一つ選びなさい。

1. せっかく小樽にいらした観光客のために、できるだけ多くの知識を教えてあげたい。
2. 観光客が喜んで聞いている場合は、時間をオーバーしてもガイドを続けた方がいい。
3. 大きな声でわかりやすく、自分のもっとも得意なコースを選んでガイドした方がいい。
4. お客様の年齢などを考慮して、簡潔にわかりやすく、エピソードなどを交えて楽しいガイドにしたい。

問17

小樽の港についてガイドする場合、次の中から正しいものを一つ選びなさい。

1. 小樽の港は明治の時代になってから船が停泊するようになった。
2. 第一次世界大戦に、小樽の港からヨーロッパに穀物が輸出された時、北防波堤はまだ完成していなかった。
3. 小樽の港は北海道開拓に重要な役割をして、明治政府の国策に貢献した。
4. 小樽の港は北と南の防波堤が完成したので特別輸出港になった。

問18

明治時代に小樽で活躍した商人「沼田喜三郎」を観光客にガイドする場合、次の中から正しいものを一つ選びなさい。

1. 海運業で財を成し、長橋中学校の創立に大きく貢献した。
2. 廻船問屋から鯨漁場など多くの事業に成功し小樽市公会堂を建てて寄付した。
3. オコバチ川に水車を造り、精米業で成功し内陸部の開拓にも貢献した。
4. 米、雑穀、倉庫業などで成功し、能舞台を自宅に建て、後に小樽市に寄付した。

問19

明治から大正にかけて小樽の建築物を観光客にガイドする場合、次の中から正しいものを一つ選びなさい。

1. 日本銀行旧小樽支店は、明治の時代東京駅を造った曾禰達蔵が設計した。
2. 旧三井銀行小樽支店は、関東大震災の後、地震に強い建造物として辰野金吾が設計した。
3. 旧日本郵船(株)小樽支店は佐立七次郎の作品で国の重要文化財に指定されている。
4. 小樽市公会堂は片山東熊が設計し、現存している貴重な建造物である。

記述問題

次の各設問に200字前後で文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

1. 観光客の小樽滞在時間は増えていますか、減っていますか。それは何故ですか。
2. 小樽の歴史は北海道の歴史、世界の歴史ともつながっていました。第一次世界大戦時はその顕著な例といえます。その戦争と北海道、小樽はどのようにつながっていたのでしょうか。
3. 小樽観光が「まちづくり観光」といわれている理由を述べなさい。
4. 「おたる案内人・マイスター」は、小樽観光にどのように影響し、どのような力になっていけると考えますか。
5. 小樽で明治から大正にかけて活躍した商人で、私財を投じて公共事業を行った人がいます。その中であなたが知っている商人を一人紹介する時、どのような内容でガイドしますか。

総合記述問題

次の設問に400字前後で文章で述べなさい。(簡条書きは不可)

これまで小樽観光の弱点がいくつか指摘されています。「滞在型でない」「冬は閑散としている」「夜の観光客が少ない」「運河や堺町しか歩かない」「プライベート型が少ない」などですが、これらの弱点のうち一つをとらえて、どうすればその弱点をカバーしていけるか、あなた自身の提案を書いてください。